

# 届けますっ! 大和魂 2015年4月 Vol.5

## —経営理念—

有限会社大名は「届けますっ大和魂!」を合言葉に日本の歴史、古美術を発信し貴方(お客様)の趣味を応援するタイムマシーン企業を目指します

## —目次—

- ・大山祇神社に行つて来ました
- ・中掘(なかぼり)
- ・語ります大和魂
- ・島谷(しまたに)
- ・ハナエモンのタリムスリップ
- ・花本(はなもと)

## 大山祇神社神社に行つて来ました~

### ◆大山祇神社(おおやまづみじんじや)編~



◆乎知命御手植えの楠

推古天皇(すいこてんのう594年:飛鳥時代)に創建され古来より天皇・武将が参拝し、初代内閣総理大臣の伊藤博文(いとうひろぶみ)も参拝に訪れております。

中へ入るととても静かで穏やかな空気を感じました。

← 神門の前にあるドンと腰をおろした様な乎知命御手植えの楠(おちのみことおてうえのくすのき※)は樹齢約2600年の神木で天然記念物に指定されています。

← 花本:「会社が千年、二千年と生き残れるようにパワーを下さい。ハッ!!!」

→ 会社が無事に11年を迎える事が出来た感謝の気持ちで参拝しました。

※ 鎮祭をした記念におちのみこが手植えされたご神木だそうです。



中掘(なかぼり)



◆総門



◆神社参拝前



◆参拝

### ◆大山祇神社宝物館(おおやまづみじんじやほうもつかん)編~

ここへは全国の国宝・重要文化財の指定を受けた武器類の約8割が奉納・展示されており、有名な源義経(みなもとのよしつね)幼名「牛若丸」、兄の源頼朝(みなもとのよりとも)鎌倉幕府・初代将軍の大鎧も展示されております。

館内へ入ると…すばらしい甲冑・刀剣類ばかりが、ずら~と展示されていました。最初に興奮したのは、あの有名な武蔵坊弁慶(むさしぼう べんけい)の大薙刀(おおなぎなた)です。奉納されていた大薙刀は刃長101cmもありますが反を浅くし、戦いの時にすぐ鞘(さや)から抜けられるように造られたのでしょうか。

弁慶は1000本の太刀を奪おうと道行く人を襲い999本まで集め、あと一本というところで牛若丸(義経)に襲いかかるが軽々と攻撃をかわされ負けてしまい、自ら牛若丸の家来になるというエピソードがあります。

展示されている刀剣類は太刀(たち)が多く、最も長いもので180cmありました。

中掘:「こんな大きい刀どうやって使うんかねえ~」

島谷:「遠くの敵を一発で仕留めとったんじゃない?」

花本:「別名、背負太刀とも言って背中に背負って戦場で、人・馬共になぎ倒せるように使用されようたんで~」

中掘・島谷:「へ~!」

そうなんじゃ~」

ここでは、しばらく

社長の歴史自慢が

止まりませんでした~



◆大山祇神社宝物館前

## 女武将!! 瀬戸内のジャンヌ・ダルク

ここでしか見られない 唯一現存する女性用甲冑 女武将、鶴姫:大祝 鶴(おおほうりつる:1526年?~1543年? 室町末期)の胴が奉納されております。

中掘:「ウェストの部分がくびれとって細いねっ」 島谷:「胸の部分もふっくらしてるわあっ」

中掘:「女性らしい胴じゃねっ」 島谷:「ほんまじゃねっ」

鶴姫は、大三島にある大山祇神社の大宮司・大祝安用(おおほうりやすもち)の娘として生まれ幼いときから体格が良かったそうです。2人の兄と共に兵術を学び、兵法にも精通していました。周防国(すおうのくに:山口県)の大内 義隆(おおうち よしたか)は大三島を再三に渡り攻めてきました。最初は長男・安舎(やすおく)が陣代(一軍の代表)として出陣し、撃退しました。安舎が父の後を継ぎ神職についた為、二男の安房(やすふさ)が陣代となり出陣しましたが戦死してしまいました。その為、16歳の鶴姫が陣代として出陣し、敵の武将を討ち取るなど活躍しました。しかし、鶴姫の右腕で恋人とも言われる越智安成(おちやすなり)が戦死したのがきっかけで戦況が悪化していき、18歳で自害しました。

16歳の若さ、年頃の少女が自分の命を危険にさらし戦場へ行く…自分が16歳の時を考えるとあまりにも背負う物が違いすぎるな~と感じました。そして恋人の死…

鶴姫にとって彼は生きる支えだったのですね。「瀬戸内のジャンヌ・ダルク」と呼ばれるようになった彼女ですが、戦の愚かさ・家族・恋人を失う悲しみを、この世に身を持って伝えてくれた女性であったと思います…私達も鶴姫のように強い女になるぞ!



◆唯一現存する女性用甲冑



やあ~

鶴姫のように強く!

### ◆昼食編~

大山祇神社宝物館の敷地内にあるレストランで楽しみにしていた昼食です。瀬戸内海でとれた「鯛を使用した」鯛ラーメンを頼みました。

そして私がどうしても鶴姫のようにになりたいと…お値段高めめの鶴姫御膳を頼みました。



あっさりしてうまい!

ん~あっさりして出汁がうまい! お酒飲んだ後に食べたいラーメンじゃわ~



ドーン!

食べるの嬉しいな!



すっすごい! 贅沢じゃわ~ 豪華すぎてどこから食べればいいのかからんよ。

次に、海戦焼きセットを頼みました。



何から食べようかな~

焼き焼き~♪ 楽しい~♪ ビールが欲しい~っす!

見た目も凄いです。一人前の量にしては多いので3人で美味しく頂きました。今回、多くの甲冑・刀剣類を見ることが出来、日本の歴史を学ぶことが出来ました。改めて日本人の物造りは丁寧で、職人の繊細な仕事も知りました。私達もより良い古美術品を発信出来るように頑張ろうと思いました。感謝~

## 新春お年玉プレゼント当選発表!!

新春お年玉クイズの答えは、校歌(硬貨)でした。抽選により「大和魂」からは

◆5等賞 ハローキティチェキ…熊本県 テッチさん

◆12等賞 フットバスCute …大阪府 ロバーとケンさん

おめでとうございます! 近日中にお届け致します。沢山のご応募・ご感想頂き誠にありがとうございました。



ホームページリニューアルしました

有限会社 **大名** ホームページ <http://daimyou.com/>  
メールアドレス [sengoku-54jp@hi.enjoy.ne.jp](mailto:sengoku-54jp@hi.enjoy.ne.jp)  
広島県尾道市栗原町2-1 3F

TEL.0848-29-6013 TEL.0848-29-3936 FAX.0848-29-3937

# 大和魂

語り  
ます

この度語らせて頂きます島谷貴子(しまたにたかこ)です。  
今回は馬追い祭りなどに使用される馬具について語らせて頂きます。



～なっ!なんと1000年以上も前のこと!～

皆様ご存知でしょうか?古墳時代の4世紀頃、今から約1714年も昔、日本へはモンゴルから馬が輸入されました。馬のことを、昔の人は「神の乗り物」であったといい伝えられていて、神様に喜んでもらう為の捧げ物でもあったそうです。現在でもその風習が残っているのが「絵馬」です。皆さんはいつも、絵馬にどんなことを書いていますか?起源は神様の捧げ物だったので、一度は神様へ感謝の言葉を添えてみてはいかがでしょうか?



～馬具とは?～

6000年前、中央ユーラシア草原地帯の人々が、馬を制御するために考案したそうです。この馬文化が日本へ伝わってきたのは5世紀になってからだそうです。こうして全世界に広がった文化にも関わらず、馬の乗り手が日本だけ独特だったようです。何が独特かという点、日本人だけ左手で馬を引いていたそうです。左手で馬を引くことによって右手を自由にさせ、刀をいつでも抜けるようにする為だったのでしょうか。そして、馬を引いていても人と行き交うのに困難ではない為だったのでしょうか。車の走行車線が右側というのも、もしかしたらこういうところからきているのかもしれないね。

鞍(くら)、正式には鞍橋(くらばね)と  
いいます。前輪(まえわ)、後輪(しずわ)、  
居木(いぎ)からなります。

鞍と馬の体の間に下鞍(したぐら)  
居木の上に鞍敷(くらしき)をつけます。  
(馬に鞍の衝撃を少なくする為)

下鞍の下にあおり(泥除けのため)をつけ  
鍙(あぶみ)を吊るす力革(ちからがわ)を  
つけます。



◆前輪



◆居木



◆下鞍



◆鞍敷



◆あおり



◆力革

～鞍の種類～

鞍が深い作りの軍陣(ぐんじん)鞍

- \*甲冑武者を乗せて、安定するように前輪、後輪が高く、肉厚になっている。
- \*馬を軽快に操作する為に、この鞍にはあおり革をつけていなかったそうです。



鞍が浅い作りになっている  
水干(すいかん)鞍という

- \*公家が水干装束(簡素な服)でそのまま騎乗する事が出来るような構造になっている為、前輪・後輪は低く肉薄になっている。
- \*軽い為、遠距離移動用にも利用されていました。
- \*室町時代以降には、軍用にも使用されるようになった。



～現在でもなお残っている馬祭り(神事)～

福島県相馬市で有名な、重要無形民俗文化財の相馬野馬追があります。起源は、平将門(たいらのまさかど)が鎌倉幕府が開かれる前(1185年)に、領内の下総国相馬郡小金原(現在:千葉県松戸)に野生の馬を放ち、野馬を敵に見立てて軍事演習を行ったことに始まるといわれています。今なお続いている神事は毎年7月の終わりにあり、今年は7/24・25・26・27に開催される予定です。福島県のお客様からも「見においで」とお声を頂いていますので、ぜひ一度は見に行ってみてはいかがでしょうか。さっと当社の商品もお客様と一緒に神事に参加していることでしょうか。



今回特集させていただいた「馬具」ですが、大名で扱っているものを別紙に入れましたので、詳しくはそちらをご覧ください。

ハナエモンの

# タ～イムスリップ

武田信玄編



今号は「語ります大和魂」のコーナーで馬具について、語らせて頂いておりますので、戦国時代の最強騎馬軍団を率いた武田信玄にタ～イムスリップ致します!武田軍といえば騎馬軍というイメージがありますよね。

武田信玄の治めた甲斐の国(現在の山梨)は当時、馬の産地として有名だったそうです。更に都である京に比べると後進地域だったので、インフラ整備が充分ではなかった。甲斐の馬は山、坂を走らされることが多く、足腰が強く、スタミナもあったので、軍馬に向いていたそうなんです。そんな馬を使い、最強の騎馬軍団を形成したんですね～!

が...しかし、最近の研究では騎馬軍団は存在しなかったのではという意見もあるそうです。

1. 大量の軍馬を戦場に動員するには大量の食料を確保しなければいけません...更にその食料の為に更なる人馬、お金が...
2. 軍馬を維持出来るだけの身分(経済力)が必要...
3. 馬に乗ったまま突撃することではなく、降りてから突撃をしたそうなんです。

現代の競走馬の様に立派な体格ではなかった日本の馬で、突撃するのは...。ルイス・フロイスも母国に宛てた手紙に「日本人は馬から降りて、戦う」と書いているそうです。

う～ん、確かに正論な気がしますね...寂しいけど。

騎馬軍団の存在の有無はおいても、武田信玄が率いた武田軍はライバルだった上杉謙信(うえずぎ けんしん)率いる上杉軍と並び戦国最強の軍団だと当時の記述にも残っているそうです。上杉謙信とは北信濃(きたしなの:現在の長野市)の支配権を巡って争った有名な戦いが川中島の戦いです。川中島を中心に五回戦っていますが、実際に激しく戦ったのは四回のみです。



◆上杉謙信



◆武田二十四将

明確な勝敗はついていないのですが、着実に支配地を増やしていった武田信玄の領国経営の方が優れていたということでしょう。

その後、信長包囲網の一角として西上作戦(せいじょう)を開始した信玄。(秋からの出兵だった為、雪国の上杉軍は武田領へ仕掛けることが出来ませんでした)武田軍の勢いは凄まじく、通常小さな支城を落とすのに一ヶ月掛かるところを三日で次々と落としていったそうです。まさに疾きこと風の如しですね!戦国最強と謳われる武田軍の本気の遠征に、織田家も徳川家もとんでもなく、ビビりまくっていたでしょう。しかし...運命のいたずらか、52歳の信玄...持病が悪化し急死し撤退へ。戦国最強と謳われた武田信玄、京に辿り着くことなく、その生涯を終えてしまいます...

疾如風  
徐如林  
侵掠如火  
不動如山

もし信玄が遠征途中で急死していなかったら



武田軍の凄まじい勢いを織田・徳川軍は止めたのでしょうか?2月号にも書いてますが、織田軍には戦争専門の軍団がありました。農繁期には撤退しないといけない武田軍に対して、年中戦える織田軍。農繁期以外は徹底的に抗戦し、農繁期には取り返すことが出来る気がします。信長の戦い方は勝るとふめば、一気に攻めますが、難しいと感じると時間を掛けてじっくり攻めるといった感じですよ。雪が溶けたら上杉軍に攻められるかもしれない武田軍に対して、長期戦に持ち込むでしょう。更に織田・徳川軍と接戦をしていたら、武田軍の同盟国で武田・徳川と隣接している北条家もどう動いたかは分かりませんね。最終的には織田・徳川軍が勝つと思いますっ!(勝ってほしいですっ!)